

チップワンストップ、自動車の安全試験テストベッドを販売本格化



車の電子化・ソフト化が進行する中、そのセキュリティ対策強化が自動車メーカーとその関連企業での課題となっている。

チップワンストップ（横浜市港北区）は、昨年7月から予約受付していたトヨタ開発の可搬型で拡張可能な自動車向け安全テストベッド、「PASTA（Portable Automotive Security Testbed with Adaptability）」を1月から販売開始。国産車安全性向上における取り組みを強化している。

本製品は、以下の特徴があり、国産車を中心とした自動車の安全設計などをより手軽に実施できる。

まず、オープンな仕様・技術で作られ、トヨタ車以外の開発・研究にも使用できる。特定メーカー・特定モデルに依存しないため、教育トレーニング用にも使いやすい。

次に、ECUのファームウェア書き換えや車載ネットワークのデザインが可能で、様々なデバイスに接続可能だ。

また、実車両なしに高度なシミュレーションが可能なため、ユーザーの安全性を確保できる。さらに、アタッシュケースに全て収まる大きさで重量も8キログラムと、この種のものとしては軽量で可搬性が高い。

車両の安全性向上は自動運転車などの次世代車開発にとって、メーカー共通の課題だ。同社によると、昨年の予約開始以来、多くの問い合わせを受けており、販売に手応えを感じているという。

「同製品の普及により、わが国での自動車開発における安全性向上に少しでも貢献できれば」と同社は考えている。